



● 介護保険サービス

福祉用具を上手に活用

介護保険のサービスのなかには、住環境の改善のための住宅改修や福祉用具購入、福祉用具貸与があります。福祉用具の利用は、自宅での介護者の負担を軽減するとともに、本人の自立支援と介護予防につながります。今回は、福祉用具について紹介します。

福祉用具の種類により、購入に該当するものと貸与（レンタル）で認められているものがあります。実際の利用を考える際は、事前に必ずケアマネージャーに相談してください。

福祉用具の購入

福祉用具のうち、購入の対

象は表1のとおりで、年間10万円までを利用限度額とし、9割は介護保険で支払い、1割が自己負担になります。

福祉用具の貸与（レンタル）

福祉用具の貸与用品は表2のとおりです。適切なサービスの利用という点で、身体状況によっては、介護保険で認められない場合もあります。

歩行器について

歩行器とは歩行が困難な方の歩行を補助機能を持ち、移動時に体重を支え、四つの脚フレームでつながった歩行補助具です。歩行移動補助のなかには、大きく分けて、①歩行器（車輪なし）②歩行器に

車輪がついた歩行車（介護保険では、①、②ともに歩行器と区分されています）③シルバーカーと呼ばれる買物型歩行車に分けられます。③は、介護保険の貸与の対象にはなりません。介護保険の福祉用具の貸与の対象となる歩行器は、表3の①と②のタイプです。

シルバーカーとの違い

歩行器は、基本的に歩くことがかなり困難な方に対し、体重を支えバランスを補助する能力が大きいので、より安定して安全に歩くことができます。ただし、後ろに転びやすい方は要注意です。それに比べて、シルバーカーは屋内

や近所の散歩はできるという、比較的短い距離であれば問題なく歩くことができても長い距離を歩くことに不安を持っている方や、買物に行つて荷物を持って歩くのが困難である方のためのもので、体重を支えるというよりは、バランスを補助することに重点が置かれています。散歩の途中でシルバーカーに座つて休むことで、歩行距離を伸ばす活動範囲を広げていくことができます。

理学療法士に相談を！
町では、月2回、理学療法士による相談を実施しています。実際に生活しているご自宅を訪問し、福祉用具の利用や住宅改修、機能訓練などについて、助言などをします。希望する方は、気軽に保健介護課へご連絡ください。

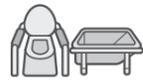
保健介護課
保健師 田辺弘子

☎84-0320

(表1)

福祉用具購入

- ・腰掛け便座 ・入浴補助用具
- ・特殊尿器 ・簡易浴槽
- ・移動用リフトのつり具



(表2)

福祉用具貸与

- ・車いす ・車いす付属品
- ・特殊寝台 ・特殊寝台付属品
- ・床ずれ防止用具 ・体位変換器
- ・手すり（工事を伴わないもの）
- ・スロープ（工事を伴わないもの）
- ・歩行器 ・歩行補助つえ
- ・認知症高齢者徘徊感知機器
- ・移動用リフト（つり具を除く）



(表3) 主な歩行器の種類

①歩行器（車輪なし）

主に室内で利用し、上肢の筋力と立位バランスが必要です。杖で歩く練習をする前に使用する機会が多く、大腿骨骨折後や膝関節症の方など。



②車輪がついた歩行車

一人で杖での歩行が可能ですが、持続して歩行する場合、バランス能力に不安がみられる方など。



③買物型歩行車（シルバーカー）

高齢者の方で、杖での歩行はできても持続した歩行が困難な方など。



子育てワンポイント

64

◎ 車のおもちゃばかりで遊んでほかのものには興味を示しません。

▲ひとつのことに夢中になる子もいれば、いろいろなことに関心を示し、遊びがあれこれ変わる子もいます。それは子ども一人一人の個性や発達の程度、育つ環境などの違いがあるからです。

車が好きなら、お母さんもしっかり楽しんでみましょう。車を見るために外出すれば、親子の会話が増えます。車の大きさ、形、色の違いにも気づけます。親子で数を数えることもできます。広告紙などで切り抜きをすれば、はさみの練習にもなります。好きなことから、いろいろな方向に目を向けましょう。楽しみながら、より豊かな体験ができます。



幼稚園に入園すれば子ども同士の関わりが増え、多くの遊びの刺激を受けるようになります。子どもの成長とともに、興味や関心の対象も広がっていきます。

開成幼稚園

☎82-4247

開成幼稚園

のびのび子育てルーム

☎83-4198



のびのび子育てルーム「お母さんといっしょ」

「おはようございます」教室や校庭、廊下で子どもたちの元気いっぴいの声が毎朝聞こえてきます。

私 はこの四月、開成小学校に赴任してきました。今までは違う環境、全校児童が千人を超える大きな学校というところで、初めは「子どもたちと仲良くなれるか」「この環境に慣れるか」と不安でした。また、初めて一年生を担任することになり、期待もありましたが、本当に不安でいっぱいでした。

し かし、ここまで過ぎてきて、いつの間にか私の抱えていた不安が消えてしまった気がします。

一 つは、子どもたちも私と同じように、期待と不安を抱えながら学校に来ているのだとわかったからです。

四 月の入学式。一年生の子どもたちは、ドキドキした様子で保護者といっしょに教室へ入ってきました。

私の「おはようございます」の声に、ちよつと照れながら「おはようございます」とこたえた子どもたちの顔が、今でも思い出されます。四月は、一年生の子もたちにとって初めてのことがばかりです。あ

いさつ一つでも、「どんなあいさつがあるか」「どんなあいさつをしたら自分も、友達もうれい気持ちになるか」などをみんなで考えることから始めました。そして、遊びを交えてあいさつの仕方をみんな練習したり、毎日繰り返し練習したり、毎日あいさつをしたりしてきました。すると、自然に子どもたち同士が仲良くなつていきました。今

思いました。また、「友達、仲間がいる」という安心感、子どもたちにとって、とてもたいせつなことだとも感じました。

う一つは、六年生のお兄さん、お姉さんの温かい心に触れることができたことです。

あ ちと大縄跳びをする約束をしていたのですが、少し遅れてしまいました。待ち合わせの場所へ行くと、六年生が縄を回して一年生の子もたちといっしょに遊んでいてくれました。

除や給食の片付けだけでなく、一年生のことを常に見守ってくれている六年生の存在を知り、とてもうれい気持ちになりました。

開 成小学校の子もたち、支え合う、素敵な子どもたちだと思えました。今、開成小学校の子もたちと、毎日楽しく学校生活を送れていることがとてもうれいことです。

子どもたちは、少しずつ繰り返したり、みんなで行動したりすることで、安心や楽しさを感じているようです。

子どもたちを見ていて、あいさつは、人と人の心をつなげる一番の方法だと



開成小学校教諭 浜田 育里

